

## 研修報告書No. 23

所 属：県外大学病院研修医

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院

医療法人聖真会 渭南病院

宿毛市沖の島へき地診療所

私は平成28年2月29日から3月24日までの計1ヶ月で高知県の大井田病院、渭南病院で各々2週間ずつ、沖の島診療所で2日間の地域医療研修を行わせていただきました。この研修を通して感じたこと、学んだことに関して以下に述べさせていただきます。

まず、臨床面で感じたことについて述べます。私が研修をさせていただいた幡多地域は65歳以上の高齢者割合が30%以上の高齢化地域です。また、高知県の問題として、医師数の約70%が高知市周辺の中央医療圏に集まり、県内での医師の偏在が大きなことがあります。それゆえ少数の医師で外来・入院診療をまわし、各々の医師が自分の専門領域以外の診療にも当たり前のように携わる、いわば「専門領域+総合診療」を行う状態が当たり前となっていました。医療過疎地域でこのような状態になることは想像に難くないことかもしれません。しかし、今後の日本社会で大きな問題となる「2025年問題」を考えた際に、幡多地域の人口構成からは「2025年のフェーズに到達した未来の日本」を目の当たりにし、同然と考えられます。今後全国でさらなる高齢化社会を迎える上で、各々の専門性のみならず、総合的な診療を行う能力の重要性がますます高まってくることを肌で感じる事が出来ました。

次に、今後の地域社会の医療のありかたに関して述べさせていただきます。研修を通しては訪問診療・看護・リハビリや地域包括支援センターなどを見学させていただきました。また、高知県庁の伴正海先生による「地域医療構想と地域包括ケア」に関する講演を拝聴する機会にも恵まれました。これまでの私の考え方では、高齢化社会と医師の偏在に対応していく為には「疾患の予防」が何より重要であり、病気になる人が減ることで患者と医師含む周囲の関わる人の幸せに繋がるのではないかと考えていました。しかし、上記のようなフィールドワークと講演を拝聴したとこで、「地域包括ケア」の概念を認識することが出来ました。その中で「疾患の予防」は1つの枝葉であり、根幹に据えるべきは「人の住まいと暮らし」であることを学ばせていただきました。その他の枝葉として「医療・看護」、「介護・リハビリ」があり、それらのバランスがとれている必要があります。地域全体での各業種・施設間の垣根を低くして密な連携・必要な情報交換を行うことで実現されることが重要と学びました。具体例として、「ある患者に対して適切な介護や吸痰を導入することで誤嚥性肺炎による入院を防ぎ、現状のADLを維持した。」という状況を考えます。こ

の流れは病院内に居る医師のみで実現出来ず、病院外ケアの充実によって達成出来る地域の関係プレーとなります。地域ごとに異なる「人の住まいと暮らし」を守るために全体の流れを俯瞰して物事を考えることの重要性が考えられました。その結果として医療の需要を抑えて医療のマンパワー不足の相対的解消を目指すとともに、医療経済的観点からみても好循環が生まれるような未来を作っていく必要があると思えました。

最後に、高知県内の研修医発案で始まった「コーチレジ」の取り組みに関して述べさせていただきます。高知県内の研修病院間の移動の自由を認め、「高知県全体の病院群による研修」というスタイルを実現して県内研修医の数を増加させていったものです。機会に恵まれ年1回の「コーチフェス」に参加させていただいた感想として、県内の研修医同士は病院が違って「仲間」であり、その結束力が強く羨ましいと感じました。臨床研修をする上で他病院にいて症例を取り合わないにもかかわらず、「仲間」として存在する研修医の数が多く、また、科や病院の研修期間をある程度フレキシブルに変更出来る点をとっても魅力的に感じました。人材不足に喘いだ地域の中で「実際に働いている者の視点」からシステム変えて、「仲間と楽しい雰囲気」を作り、人が人を呼ぶ好循環を生み出したことが高知県の成功事例の根源と考えます。

全体を総括して、この地域研修では多くの視点からの意見、そしてなにより医療という側面から地域のこれまでとこれからの歩みを真剣に考える方々の熱意を受け取ることができ、研修という意味のみならず人生観という意味でも大きな経験となりました。このような素晴らしい機会を与えていただき、誠にありがとうございました。